

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2024年2月1日(01.02.2024)



(10) 国際公開番号

WO 2024/024722 A1

(51) 国際特許分類:
A41D 13/11 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2023/026990

(22) 国際出願日: 2023年7月24日(24.07.2023)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2022-118327 2022年7月26日(26.07.2022) JP

(72) 発明者; および

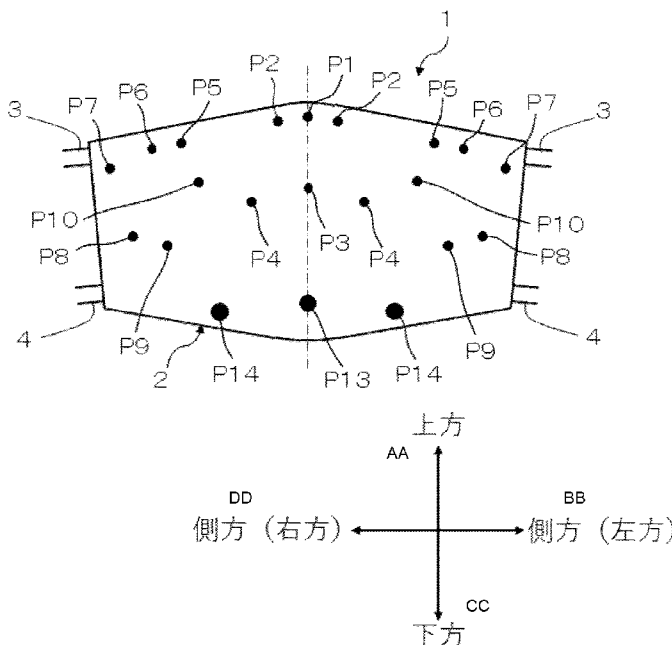
(71) 出願人: 山岡 千恵美(YAMAOKA Chiemi) [JP/
JP]; 〒5400031 大阪府大阪市中央区北浜東4
番24-1406号 Osaka (JP).

(74) 代理人: 木村 薫(KIMURA Kaoru); 〒3540031
埼玉県富士見市勝瀬709-12 木村
薫国際特許事務所 Saitama (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MU, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK,

(54) Title: WORN OBJECT

(54) 発明の名称: 装着物



(57) Abstract: [Problem] To provide a worn object that enables a user wearing the worn object to receive contact acupuncture and an acupressure effect. [Solution] A worn object 1 worn on a human body comprises a worn object main body 2 that covers a predetermined body surface range where acupuncture points are present, and projections P1 to P10, P13, P14 disposed in positions overlapping the acupuncture points and projecting from a back surface side of the worn object main body 2 toward the body surface range. The worn object main body 2 includes non-woven fabric 8 overlapping the

[続葉有]



SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA,
UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, CV, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SC, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, ME, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第21条(3))

projections P1 to P10, P13, P14 from a front surface side. The non-woven fabric 8 overlaps an outer fabric 6 and an inner fabric 7 in a state of being interposed between the outer fabric 6 and the inner fabric 7.

(57) 要約: 【課題】装着したユーザが接触鍼および指圧効果を享受することが可能な装着物の提供。【解決手段】人体に装着される装着物1であって、ツボが存在する所定の体表面範囲を覆う装着物本体2と、ツボと重なる位置に配置され、装着物本体2の裏面側から体表面範囲に向かって突出する突起P1~P10, P13, P14と、を備える。装着物本体2は、突起P1~P10, P13, P14に表面側から重なる不織布8を有する。不織布8は、表生地6と裏生地7との間に挟まれた状態で表生地6および裏生地7と重なり合う。

明 細 書

発明の名称：装着物

技術分野

[0001] 本発明は、人体に装着されて所定の体表面範囲を覆う装着物に関する。

背景技術

[0002] 人体（ユーザ）に装着されて所定の体表面範囲を覆う装着物として、例えばマスクが知られている。マスクは、ユーザの顔に装着されて少なくとも顔の一部を覆う。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2021-85135号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 人体には、複数のツボ（経穴）が存在する。ツボは、神経が重なり合う場所であり、ツボを押して刺激することによって接触鍼および指圧効果を得ることができる。

[0005] そこで本発明は、装着したユーザが接触鍼および指圧効果を享受することが可能な装着物の提供を目的とする。

課題を解決するための手段

[0006] 上記目的を達成すべく、本発明の第1の態様は、人体に装着される装着物であって、ツボが存在する所定の体表面範囲を覆う装着物本体と、ツボと重なる位置に配置され、装着物本体の裏面側から体表面範囲に向かって突出する突起と、を備える。

[0007] 本発明の第2の態様は、第1の態様の装着物であって、装着物本体は、突起に表面側から重なる不織布を有する。

[0008] 本発明の第3の態様は、第2の態様の装着物であって、装着物本体は、織布からなる表生地および裏生地を有する。裏生地は、突起が固定される裏面

を有する。不織布は、表生地と裏生地との間に挟まれた状態で表生地および裏生地と重なり合う。

[0009] 本発明の第4の態様は、第3の態様の装着物であって、表生地および裏生地は、コラーゲンペプチドが練り込まれた繊維で織成された織布である。

[0010] 本発明の第5の態様は、第1の態様の装着物であって、装着物本体は、生分解性素材によって構成される。

[0011] 本発明の第6の態様は、第1の態様の装着物であって、装着物の装着物本体は、人体の顔に装着されるマスクのマスク本体である。マスク本体が覆う所定の体表面範囲には、人体の口が属する顔下側領域と、喉が属する頸部上側領域と、が含まれる。ツボには、頸部上側領域に存在する頸部側のツボが含まれる。突起には、頸部側のツボと重なる位置に配置される頸部側の突起が含まれる。

[0012] 本発明の第7の態様は、第6の態様の装着物であって、頸部側のツボは、廉泉および人迎を含む。

[0013] 本発明の第8の態様は、第6の態様の装着物であって、ツボには、更に顔下側領域に存在する顔側のツボが含まれ、突起には、更に顔側のツボと重なる位置に配置される顔側の突起が含まれる。

[0014] 本発明の第9の態様は、第8の態様の装着物であって、マスク本体からの突起の突出高さは、頸部側の突起の方が顔側の突起よりも高い。

[0015] 本発明の第10の態様は、第8の態様の装着物であって、マスク本体の左右の端縁の上部から延びる左右の第1紐状部と、マスク本体の左右の端縁の下部から延びる左右の第2紐状部と、第1紐状部と第2紐状部とが移動可能に挿通する左右の紐挿通部材と、を備える。左右の第1紐状部と左右の第2紐状部と左右の紐挿通部材とは、マスク本体の左右の端縁との間に環状の左右の耳掛け部を形成する。左右の耳掛け部を左右の耳に掛けることにより、マスクが顔に装着される。紐挿通部材を第1紐状部に対して移動させることにより、マスク本体の端縁から紐挿通部材までの第1紐状部の長さが増減する。紐挿通部材を第2紐状部に対して移動させることにより、マスク本体の

端縁から紐挿通部材までの第２紐状部の長さが増減する。

[0016] 本発明の第１の態様は、第１の態様の装着物であって、紐挿通部材は、第１紐状部が挿通する第１紐挿通孔と、第２紐状部が挿通する第２紐挿通孔と、を有する。

発明の効果

[0017] 本発明によれば、ユーザは、装着物を装着することによって接触減および指圧効果を享受することができる。

図面の簡単な説明

[0018] [図１]本発明の一実施形態に係るマスクの展開状態を示す図である。
[図２]図１のマスク本体を二つ折りに畳んだ状態のマスクを示す図である。
[図３]図３のマスク本体および突起の断面図である。
[図４]図１のマスク本体を裏面側から見た図である。
[図５]人の顔および頸部に存在するツボの位置を示す図である。
[図６]図１のマスクの第１の装着状態を示す図である。
[図７]図１のマスクの第２の装着状態を示す図である。
[図８]本発明の変形例に係るマスクの構成を示す図である。
[図９]本発明の変形例に係るマスクの構成を示す別の図である。

発明を実施するための形態

[0019] 以下、本発明の第１実施形態について図面を参照して説明する。本実施形態では、装着物として人（ユーザ）の顔に装着されるマスク１を例示している。なお、以下の説明において、上下および左右は、顔に装着された状態での顔の上下および左右に対応し、前後は、マスク本体２の表面側（反ユーザ側）および裏面側（ユーザ側）を意味する。

[0020] 図１及び図２に示すように、マスク１は、いわゆる衛生マスクであり、マスク本体（装着物本体）２と、左右の第１紐状部３と、左右の第２紐状部４と、左右の紐挿通部材５と、を備える。マスク本体２は、展開状態で左右の中央部が前方へ膨出する平面視略矩形状であり、図３に示すように、織布からなる表生地６および裏生地７と、表生地６および裏生地７よりも剛性が高

い不織布 8 とから構成される。マスク本体 2 は、不織布 8 が表生地 6 と裏生地 7 との間に挟まれた状態で表生地 6 および裏生地 7 と重なり合う三層構造を有する。

[0021] 表生地 6、裏生地 7 および不織布 8 の素材は限定されず、任意の素材を用いることができる。例えば、表生地 6 および裏生地 7 に、コラーゲンペプチドが練り込まれた繊維（例えばレーヨン）で織成された織布を用いた場合、コラーゲンペプチドが繊維に練り込まれているので、洗濯してもコラーゲンペプチドが脱落し難く、コラーゲンペプチドによる抗菌効果および消臭効果を継続して得ることができる。繊維に練り込むコラーゲンペプチドは、魚鱗から抽出する等のように 100%天然由来であることが好ましい。また、表生地 6、裏生地 7 および不織布 8 に、生分解性素材を用いることにより、環境に対する負荷を軽減することができる。

[0022] 図 1 及び図 2 に示すように、第 1 紐状部 3 および第 2 紐状部 4 は、例えば長尺細幅の布製帯状体であり、マスク本体 2 の左右の端縁の上部および下部からそれぞれ延びる。左右の第 1 紐状部 3 の一端部は、マスク本体 2 の左右の端縁の上部に縫い付けられ、左右の第 1 紐状部 3 の一端部は、マスク本体 2 の左右の端縁の上部に縫い付けられる。

[0023] 紐挿通部材 5 は、例えば筒状に縫製された布製であり、第 1 紐挿通孔 11 と第 2 紐挿通孔 12 とを上下に有する。紐挿通部材 5 の第 1 紐挿通孔 11 には、第 1 紐状部 3 が移動可能な状態で挿通し、第 2 紐挿通孔 12 には、第 2 紐状部 4 が移動可能な状態で挿通する。第 1 紐状部 3 の他端部には、第 1 紐挿通孔 11 を挿通しない大きさを有する第 1 抜け止め部 13 が設けられ、第 2 紐状部の他端部には、第 2 紐挿通孔 12 を挿通しない大きさを有する第 2 抜け止め部 14 が設けられる。第 1 抜け止め部 13 により第 1 紐状部 3 からの紐挿通部材 5 の離脱が阻止され、第 2 抜け止め部 14 により第 2 紐状部 4 からの紐挿通部材 5 の脱落が阻止される。なお、第 1 抜け止め部 13 および第 2 抜け止め部 14 は、所定の重量を有し、マスク 1 の装着時に第 1 紐状部 3 および第 2 紐状部 4 の他端部がフラフラする等不安定になることも防止する。

ことができる。第1 抜け止め部1 3および第2 抜け止め部1 4は、例えば、木製とすることができる。第1 抜け止め部1 3および第2 抜け止め部1 4は、木製その他金属製、プラスチック製等所定の重量を有する他の材料としてもよい。

[0024] 左右の第1 紐状部3と左右の第2 紐状部4と左右の紐挿通部材5とは、マスク本体2の左右の端縁との間に環状の左右の耳掛け部1 0を形成する。左右の耳掛け部1 0を左右の耳に掛けることにより、マスク1がユーザの顔に装着される。マスク1の装着状態は、マスク本体2の上縁がユーザの鼻孔の直下方に位置し、マスク本体2の下縁がユーザの喉の直下方に位置し、マスク本体2が口を覆う第1の装着状態（図6参照）と、マスク本体2がユーザの鼻孔および口を覆い、マスク本体2の下縁が顎の外縁に位置する第2の装着状態（図7参照）とを含む。

[0025] 紐挿通部材5を第1 紐状部3に対して移動させることにより、マスク本体2の端縁から紐挿通部材5までの第1 紐状部3の長さ（耳掛け部上長さ）が増減し、紐挿通部材5を第2 紐状部4に対して移動させることにより、マスク本体2の端縁から紐挿通部材5までの第2 紐状部4の長さ（耳掛け部下長さ）が増減する。耳掛け部1 0の全長は、耳掛け部上長さと耳掛け部下長さの合計長さであるので、第1 紐状部3および／または第2 紐状部4に対して紐挿通部材5を移動させることにより、耳掛け部1 0の全長を増減して調節することができる。なお、左右の耳掛け部1 0を左右の耳に掛けた装着状態では、第1 紐状部3および第2 紐状部4から紐挿通部材5に対して、挿通方向（第1 紐挿通孔1 1および第2 紐挿通孔1 2の貫通方向）と交叉する方向に引っ張り力が加わるので、紐挿通部材5が第1 紐状部3および第2 紐状部4に対して移動し難く、装着状態が安定して保持される。

[0026] また、紐挿通部材5を耳の裏側に位置させた状態で耳掛け部1 0の全長を減少（短縮）させてマスク1を装着することにより、耳の裏側に当接した紐挿通部材5は耳に対して移動し難くなる。紐挿通部材5が、第1 紐状部3が挿通する第1 紐挿通孔1 1と、第2 紐状部4が挿通する第2 紐挿通孔1 2と

を有するので、紐挿通部材 5 が耳の裏側に当接した状態で第 1 紐状部 3 の他端側を引っ張ると、耳掛け部下長さを維持したまま、耳掛け部上長さを短縮することができる。これにより、マスク本体 2 の上側部分がユーザ側に押し付けられる強さを増大させることができる。反対に、第 2 紐状部 4 の他端側を引っ張ると、耳掛け部上長さを維持したまま、耳掛け部下長さを短縮することができる。これにより、マスク本体 2 の下側部分がユーザ側に押し付けられる強さを増大させることができる。すなわち、マスク本体 2 がユーザ側に押し付けられる強さを、マスク本体 2 の上側部分と下側部分で個別に増減させることができる。

[0027] 第 1 の装着状態のマスク本体 2 は、ユーザの口および顎が属する顔下側領域と、喉が属する頸部上側領域（より詳しくは前喉部上側領域）と、を含む範囲（第 1 の体表面範囲）を覆う（図 6 参照）。第 1 の装着状態から上方にずれて位置する第 2 の装着状態のマスク本体 2 は、ユーザの鼻孔が属する顔中間領域と、口および顎が属する顔下側領域と、を含む範囲（第 2 の体表面範囲）を覆う（図 7 参照）。

[0028] 図 5 に示すように、人の顔および頸部（より詳しくは前喉部）には、複数（本実施形態では 14 種類）のツボ A（A 1 ～ A 14）が存在する。ツボ A は、神経が重なり合う場所であり、顔側のツボとしては、水溝（すいこう）A 1、左右の禾りょう（かりょう）A 2、承漿（しょうしょう）A 3、左右の夾承漿（きょうしょうしょう）A 4、左右の巨りょう（こりょう）A 5、左右の顴りょう（けんりょう）A 6、左右の下関（げかん）A 7、左右の頬車（きょうしゃ）A 8、左右の大迎（だいげい）A 9、左右の地倉（ちそう）A 10、左右の客主人（きゃくしゅじん）A 11、および左右の四白（しはく）A 12 などが知られている。頸部側（より詳しくは前喉部側）のツボとしては、廉泉（れいせん）A 13 および左右の人迎（じんげい）A 14 などが知られている。水溝 A 1 と承漿 A 3 と廉泉 A 13 とは、顔および頸部（より詳しくは前喉部）の正中線上に存在し、禾りょう A 2 と夾承漿 A 4 と巨りょう A 5 と顴りょう A 6 と下関 A 7 と頬車 A 8 と大迎 A 9 と地倉 A 10 と

客主人A 1 1と四白A 1 2と人迎A 1 4とは、正中線に対してそれぞれ左右対称に存在する。なお、図3では、正中線上のツボ（水溝A 1、承漿A 3、廉泉A 1 3）と、正中線の右側のツボ（禾りょうA 2、夾承漿A 4、巨りょうA 5、顴りょうA 6、下関A 7、頬車A 8、大迎A 9、地倉A 1 0、客主人A 1 1、四白A 1 2、人迎A 1 4）を図示し、正中線の左側のツボの図示を省略している。

[0029] 水溝A 1は、鼻と唇の間の左右中央で、鼻と唇の真ん中よりもやや上側に存在する。禾りょうA 2は、鼻の穴の外縁の下で、鼻と唇の真ん中よりもやや上側に存在する。承漿A 3は、下唇の下に凹んでいる部分の中央に存在する。夾承漿A 4は、下唇の下に凹んでいる部分の真ん中から左右外方に約1.5cm離れた位置に存在する。巨りょうA 5は、真っすぐ前を向いたときの瞳から下方に引いた線と、頬骨の下縁から左右に引いた線とが交差する位置に存在する。顴りょうA 6は、目尻から真っすぐ下方に引いた線と、頬骨の下縁から左右に引いた線とが交差する位置に存在する。下関A 7は、耳穴前方の凹んだ部分であって、口を開けたときに盛り上がる部分に存在する。頬車A 8は、顎のラインよりも少し顎に入った部分であって、力を入れて歯をかみしめると筋肉が盛り上がり、口を開けると凹む部分に存在する。大迎A 9は、下顎の角（エラ）から骨の縁に沿って指を前方に進めたときに、少し骨が窪んでいる部分であって、そっと指を当てると脈動していることがわかる部分に存在する。地倉A 1 0は、口の端から左右に引いた線と、ほうれい線を下方に伸ばした線とが交差する位置に存在する。客主人A 1 1は、頬骨の中央の上際部に存在する。四白A 1 2は、真っすぐ前を向いたときの瞳の真下であって、小鼻の左右外方で少し窪んでいる部分に存在する。顔に存在するツボA 1～A 1 2を押して刺激することによる接触鍼および指圧効果として、肌のトーンアップ、美肌、しわの低減、目のクマやたるみの低減、むくみの解消、小顔、リフトアップ、顔のゆがみの矯正、二重顎の解消などが挙げられる。

[0030] 廉泉A 1 3は、前顎部の正中線上で、喉頭隆起の上際陷凹部に存在する。

人迎A 1 4は、喉頭隆起の左右外方の頸動脈拍動部に存在する。頸部（より詳しくは前喉部）に存在するツボA 1 3, A 1 4を押して刺激することによる接触鍼および指圧効果として、ウィルス等に対する免疫力アップなどが挙げられる。

[0031] 顔側のツボA 1 ~ A 1 2のうち、第1及び第2の装着状態のマスク本体2によって覆われる顔下側領域には、ツボA 1 ~ A 1 0が存在し、第2の装着状態のマスク本体2によって覆われる顔中間領域には、ツボA 1 1, A 1 2が存在する。頸部側（より詳しくは前喉部側）のツボA 1 3, A 1 4は、第1の装着状態のマスク本体2によって覆われる頸部上側領域（より詳しくは前喉部上側領域）に存在する。

[0032] 図3および図4に示すように、マスク本体2の裏面（裏生地7の裏面）には、複数の突起P（P 1 ~ P 1 0, P 1 3, P 1 4）が設けられる。突起Pは、例えば半球形状のパワーストーンであり、例えばホットメルト等の接着剤（例えば軟質ポリウレタンホットメルト接着剤）によって固定される。接着剤をホットメルトとした場合、接着剤が外気に触れることのないように密閉した容器内に充填保持され、40℃~200℃の温度範囲に管理される。突起Pの外径Lは、例えば3mm~10mmであり、マスク本体2からの突起Pの突出高さHは、例えば2.5mm~5mmである。不織布8は、裏生地7を介して表面側（後方）から突起Pに重なる。なお、突起の形状、大きさ、材質および固定方法は、上記に限定されない。

[0033] 突起Pには、マスク1の第1の装着状態において、顔下側領域のツボA 1 ~ A 1 0と重なる位置に配置される顔側の突起P 1 ~ P 1 0と、頸部上側領域（より詳しくは前喉部上側領域）のツボA 1 3, A 1 4と重なる位置に配置される頸部側（より詳しくは前喉部側）の突起P 1 3, P 1 4とが含まれる（図6参照）。また、マスク1の第2の装着状態において、突起P 1 0はツボA 1 1に重なり、突起P 5はツボA 1 2に重なる（図7参照）。耳掛け部10の全長を減増することにより、マスク本体2が体表面範囲（ユーザ側）に押し付けられる強さが増減され、突起PがツボAを押す強さを所望の強

さに調節することができる。

[0034] マスク本体 2 からの突起 P の突出高さ H は、頸部側（より詳しくは前喉部側）の突起 P 1 3， P 1 4 の方が顔側の突起 P 1 ～ P 1 0 よりも高く、突起 P の外径 L は、頸部側（より詳しくは前喉部側）の突起 P 1 3， P 1 4 の方が顔側の突起 P 1 ～ P 1 0 よりも大きい。

[0035] 本実施形態によれば、ユーザがマスク 1 を装着することにより、ユーザの顔や頸部側（より詳しくは前喉部側）のツボ A が突起 P によって押されるので、ツボ A を好適に刺激することができ、ユーザは免疫力向上や美容効果等の接触鍼および指圧効果を享受することができる。すなわち、本実施形態のマスク 1 は、顔に装着され、顔の美顔効果を有するものであり、美顔器としても機能を発揮するものである。

[0036] 剛性の高い不織布 8 が突起 P に表面側から重なるので、剛性の高い不織布 8 によって突起 P をツボ A に押し付けることができる。さらに、不織布 8 は、表生地 6 と裏生地 7 との間に挟まれた状態で表生地 6 および裏生地 7 と重なり合うので、不織布 8 がマスク本体 2 の芯材として機能する。これにより、マスク本体 2 の剛性を不織布 8 によって高めることができ、突起 P を所望の強さで確実にツボ A に押し付けることができる。

[0037] 第 1 紐状部 3 と第 2 紐状部 4 と紐挿通部材 5 とにより、耳掛け部 1 0 の全長を調節可能に構成しているので、突起 P がツボ A を押す力を所望の大きさに調節することができる。

[0038] マスク本体 2 がユーザ側に押し付けられる強さを、マスク本体 2 の上側部分と下側部分で個別に増減させることができるので、第 1 の装着状態において、マスク本体 2 の下側部分がユーザ側に押し付けられる強さを増大させることにより、ウィルス等に対する免疫力アップに寄与する頸部側（より詳しくは前喉部側）のツボ A 1 3， A 1 4 を確実に押すことができる。

[0039] マスク本体 2 からの突起 P の突出高さ H は、頸部側（より詳しくは前喉部側）の突起 P 1 3， P 1 4 の方が顔側の突起 P 1 ～ P 1 0 よりも高く、突起 P の外径 L は、頸部側（より詳しくは前喉部側）の突起 P 1 3， P 1 4 の方

が顔側の突起P 1 ～P 1 0 よりも大きいので、第 1 の装着状態において、ウィルス等に対する免疫力アップに寄与する頸部側（より詳しくは前喉部側）のツボA 1 3, A 1 4 を、顔側のツボA 1 ～A 1 0 よりも強く且つ確実に押すことができる。

[0040] また、コラーゲンペプチドを含有するマスク本体 2 と頸部側（より詳しくは前喉部側）のツボA 1 3, A 1 4 を押す突起P 1 3, P 1 4 との相乗効果により、ウィルス等に対する免疫力をさらに高めることができる。

[0041] 以上、本発明について、上記実施形態に基づいて説明を行ったが、本発明は上記実施形態の内容に限定されるものではなく、当然に本発明を逸脱しない範囲で適宜変更が可能である。すなわち、この実施形態に基づいて当業者等によりなされる他の実施形態、実施例および運用技術等は全て本発明の範疇に含まれることは勿論である。

[0042] 例えば、上記実施形態では、刺激する対象として 1 4 棲類のツボA 1 ～A 1 4 を例示したが、これらの一部を対象としてもよく、これら以外のツボを対象としてもよい。

[0043] 上記実施形態では、第 1 紐状部 3 と第 2 紐状部 4 とを別体に設ける例を説明したが、これに代えて、第 1 紐状部の他端部と第 2 紐状部の他端部とが連続する（第 1 紐状部と第 2 紐状部とを一体的に有する）紐状部材を設けてもよい。

[0044] また、上記実施形態では、装着物がマスク 1 である例を説明したが、装着物は、マスク以外（例えば、大人用または子供用（乳幼児用を含む）の靴下、手袋、帽子、下着、腹巻などの衣料品）であってもよい。

[0045] 更に、上述した実施形態にあつては、紐挿通部材 5 は、第 1 紐挿通孔 1 1 と第 2 紐挿通孔 1 2 とを上下に有し、紐挿通部材 5 の第 1 紐挿通孔 1 1 には、第 1 紐状部 3 が移動可能な状態で挿通し、第 2 紐挿通孔 1 2 には、第 2 紐状部 4 が移動可能な状態で挿通しているが、図 8 および図 9 の変形例に係るマスク 1 のように紐挿通部材 5 は、一つの紐挿通孔 1 5 を有し、この一つの紐挿通孔 1 5 に第 1 紐状部 3 および第 2 紐状部 4 のいずれも移動可能な状態

で挿通しても所要の効果を奏する。紐挿通部材 5 は、上述した布製その他、木製としてもよい。紐挿通部材 5 は、例えば、球状をなし、中央に貫通する紐挿通孔 1 5 を設けた構成とすることができる。

[0046] 更にまた、上述した実施形態にあっては、第 1 紐状部 3 の他端部には、第 1 紐挿通孔 1 1 を挿通しない大きさを有する第 1 抜け止め部 1 3 が設けられ、第 2 紐状部の他端部には、第 2 紐挿通孔 1 2 を挿通しない大きさを有する第 2 抜け止め部 1 4 が設けられているが、図 8 および図 9 に示すように、第 1 紐状部 3 および第 2 紐状部 4 の他端部に結び目 3 a, 4 a を形成してこれを第 1 抜け止め部 1 3 および第 2 抜け止め部 1 4 としてもよい。結び目 3 a, 4 a を形成することで紐挿通部材 5 が抜け出ることを防止することができる。第 1 抜け止め部 1 3 および第 2 抜け止め部 1 4 は、第 1 紐挿通孔 1 1 および第 2 紐挿通孔 1 2 を挿通しない大きさを有し、紐挿通部材 5 が抜け出ることを防止することができるものであれば各種の構成を採用することができる。

[0047] また、図 8 および図 9 に示すように、所定の重量を有する重量部 1 6 を第 1 紐状部 3 および第 2 紐状部 4 の他端部側に設けてもよい。重量部 1 6 を第 1 紐状部 3 および第 2 紐状部 4 の他端部側に設けることで、マスク 1 の装着時に第 1 紐状部 3 および第 2 紐状部 4 の他端部がフラフラする等不安定になることも防止することができる。重量部 1 6 は、木製の環状とすることができる。また、重量部 1 6 は、木製その他金属製、プラスチック製等の他の材料としてもよい。

符号の説明

[0048] 1 : マスク（装着物）、2 : マスク本体（装着物本体）、3 : 第 1 紐状部、3 a : 結び目、4 : 第 2 紐状部、4 a : 結び目、5 : 紐挿通部材、6 : 表生地、7 : 裏生地、8 : 不織布、1 0 : 耳掛け部、1 1 : 第 1 紐挿通孔、1 2 : 第 2 紐挿通孔、1 3 : 第 1 抜け止め部、1 4 : 第 2 抜け止め部、A (A 1 ~ A 1 4) : ツボ、P (P 1 ~ P 1 0, P 1 3, P 1 4) : 突起、1 5 : 紐挿通孔、1 6 : 重量部

請求の範囲

- [請求項1] 人体に装着される装着物であって、
ツボが存在する所定の体表面範囲を覆う装着物本体と、
前記ツボと重なる位置に配置され、前記装着物本体の裏面側から前記体表面範囲に向かって突出する突起と、を備える
ことを特徴とする装着物。
- [請求項2] 前記装着物本体は、前記突起に表面側から重なる不織布を有することを特徴とする請求項1に記載の装着物。
- [請求項3] 前記装着物本体は、織布からなる表生地および裏生地を有し、
前記裏生地は、前記突起が固定される裏面を有し、
前記不織布は、前記表生地と前記裏生地との間に挟まれた状態で前記表生地および前記裏生地と重なり合う
ことを特徴とする請求項2に記載の装着物。
- [請求項4] 前記表生地および前記裏生地は、コラーゲンペプチドが練り込まれた繊維で織成された織布である
ことを特徴とする請求項3に記載の装着物。
- [請求項5] 前記装着物本体は、生分解性素材によって構成される
ことを特徴とする請求項1に記載の装着物。
- [請求項6] 前記装着物の前記装着物本体は、人体の顔に装着されるマスクのマスク本体であり、
前記マスク本体が覆う前記所定の体表面範囲には、人体の口が属する顔下側領域と、喉が属する頸部上側領域と、が含まれ、
前記ツボには、前記頸部上側領域に存在する頸部側のツボが含まれ、
前記突起には、前記頸部側のツボと重なる位置に配置される頸部側の突起が含まれる
ことを特徴とする請求項1に記載の装着物。
- [請求項7] 前記頸部側のツボは、廉泉および人迎を含む

ことを特徴とする請求項 6 に記載の装着物。

[請求項 8] 前記ツボには、更に前記顔下側領域に存在する顔側のツボが含まれ、

前記突起には、更に前記顔側のツボと重なる位置に配置される顔側の突起が含まれる

ことを特徴とする請求項 6 に記載の装着物。

[請求項 9] 前記マスク本体からの前記突起の突出高さは、前記頸部側の突起の方が前記顔側の突起よりも高い

ことを特徴とする請求項 8 に記載の装着物。

[請求項 10] 前記マスク本体の左右の端縁の上部から延びる左右の第 1 紐状部と、

前記マスク本体の前記左右の端縁の下部から延びる左右の第 2 紐状部と、

前記第 1 紐状部と前記第 2 紐状部とが移動可能に挿通する左右の紐挿通部材と、を備え、

前記左右の第 1 紐状部と前記左右の第 2 紐状部と前記左右の紐挿通部材とは、前記マスク本体の前記左右の端縁との間に環状の左右の耳掛け部を形成し、

前記左右の耳掛け部を左右の耳に掛けることにより、前記マスクが顔に装着され、

前記紐挿通部材を前記第 1 紐状部に対して移動させることにより、前記マスク本体の前記端縁から前記紐挿通部材までの前記第 1 紐状部の長さが増減し、

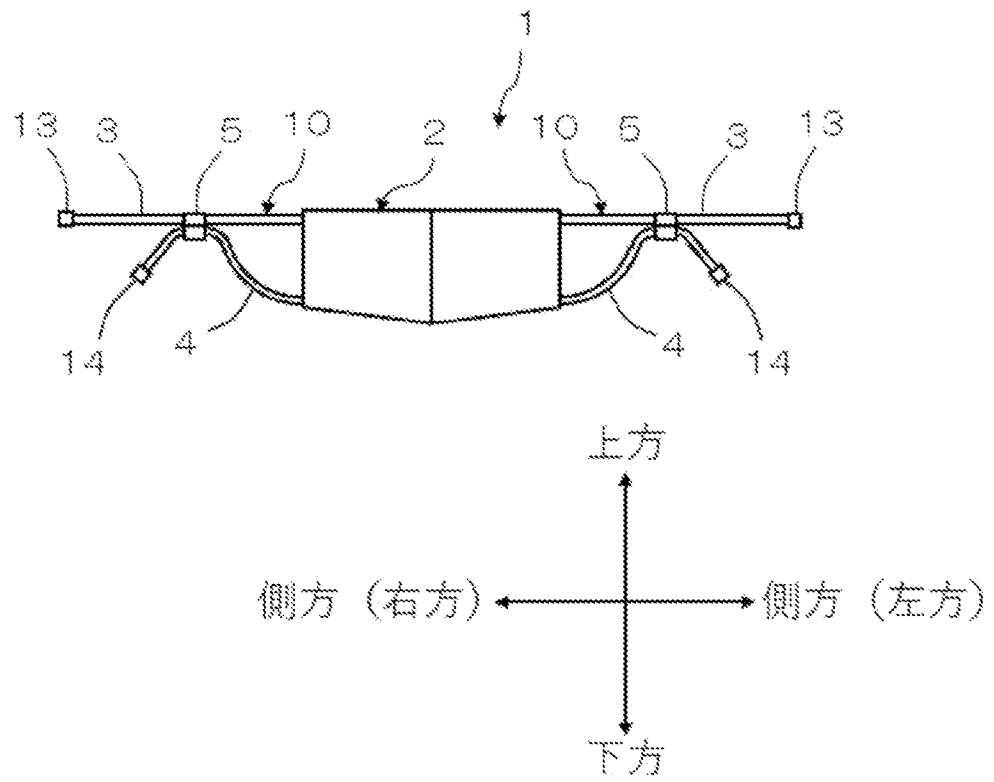
前記紐挿通部材を前記第 2 紐状部に対して移動させることにより、前記マスク本体の端縁から前記紐挿通部材までの前記第 2 紐状部の長さが増減する

ことを特徴とする請求項 8 に記載の装着物。

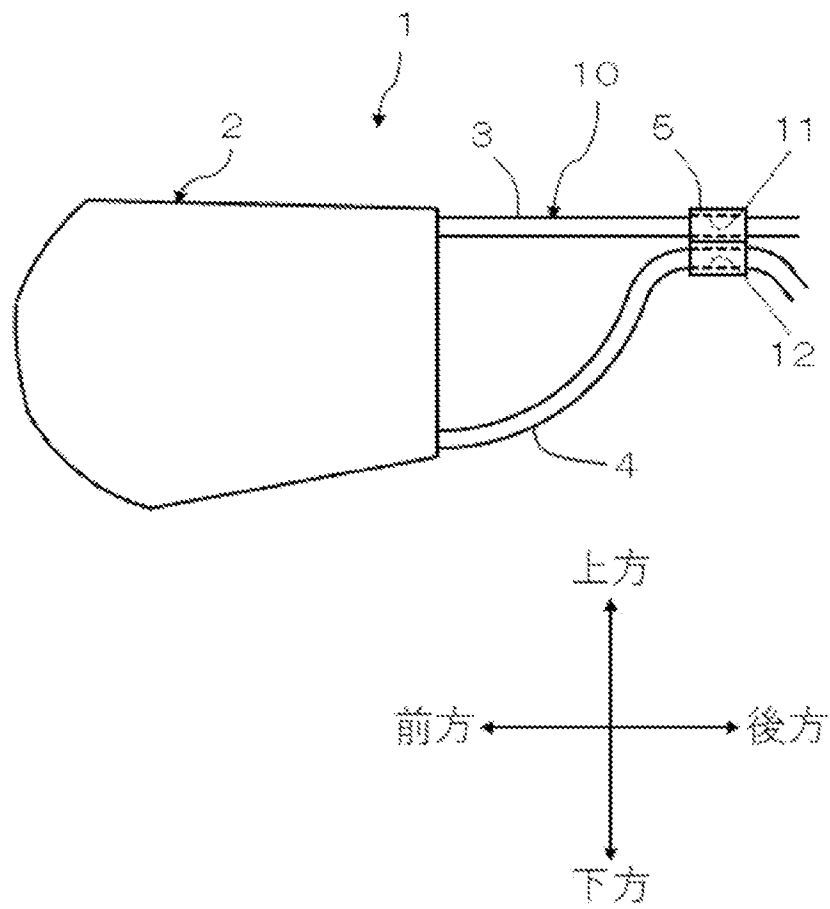
[請求項 11] 前記紐挿通部材は、前記第 1 紐状部が挿通する第 1 紐挿通孔と、前

記第 2 紐状部が挿通する第 2 紐挿通孔と、を有する
ことを特徴とする請求項 10 に記載の装着物。

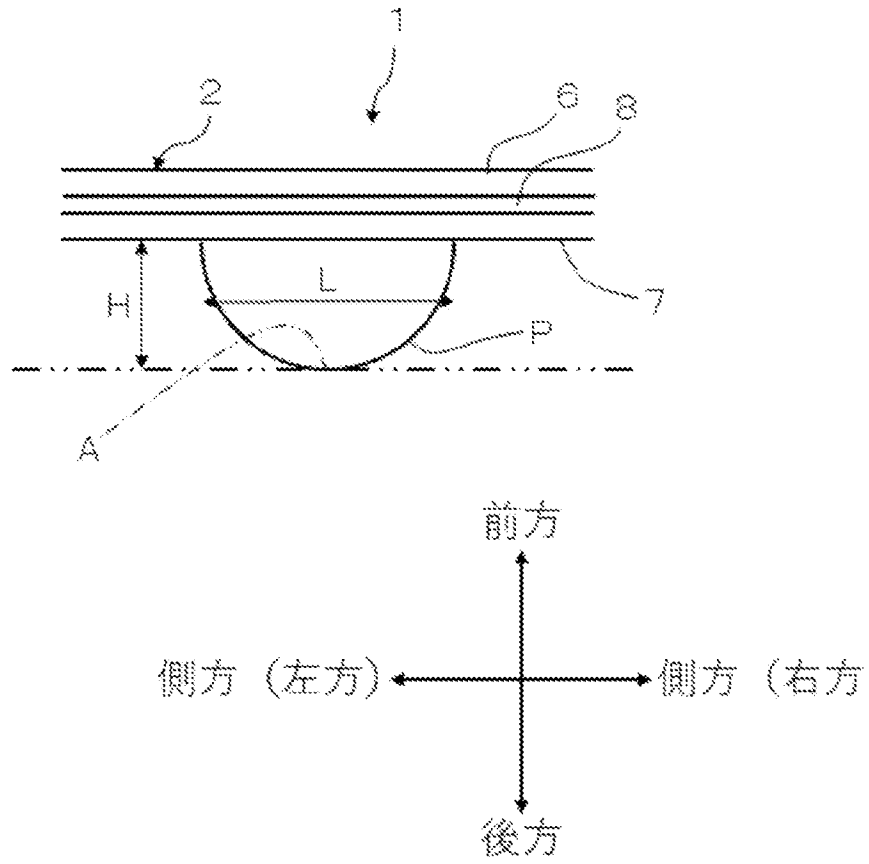
[図1]



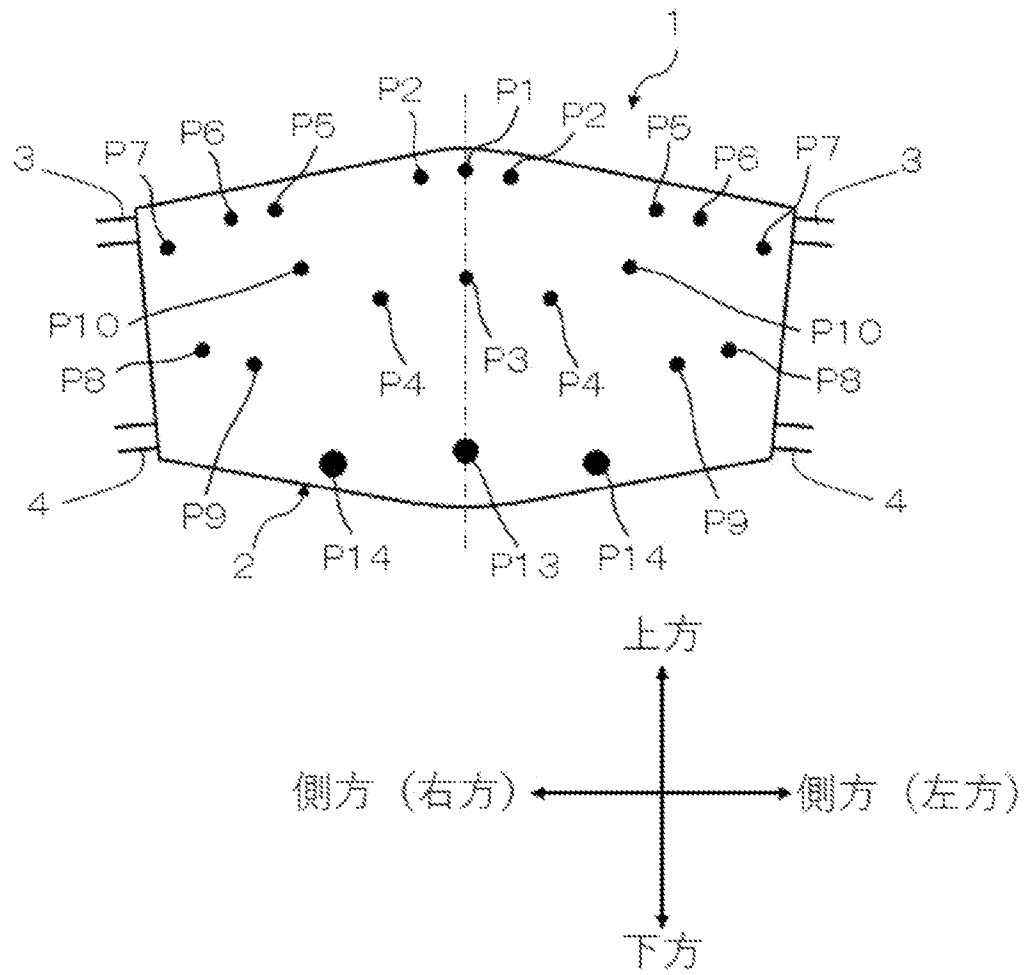
[図2]



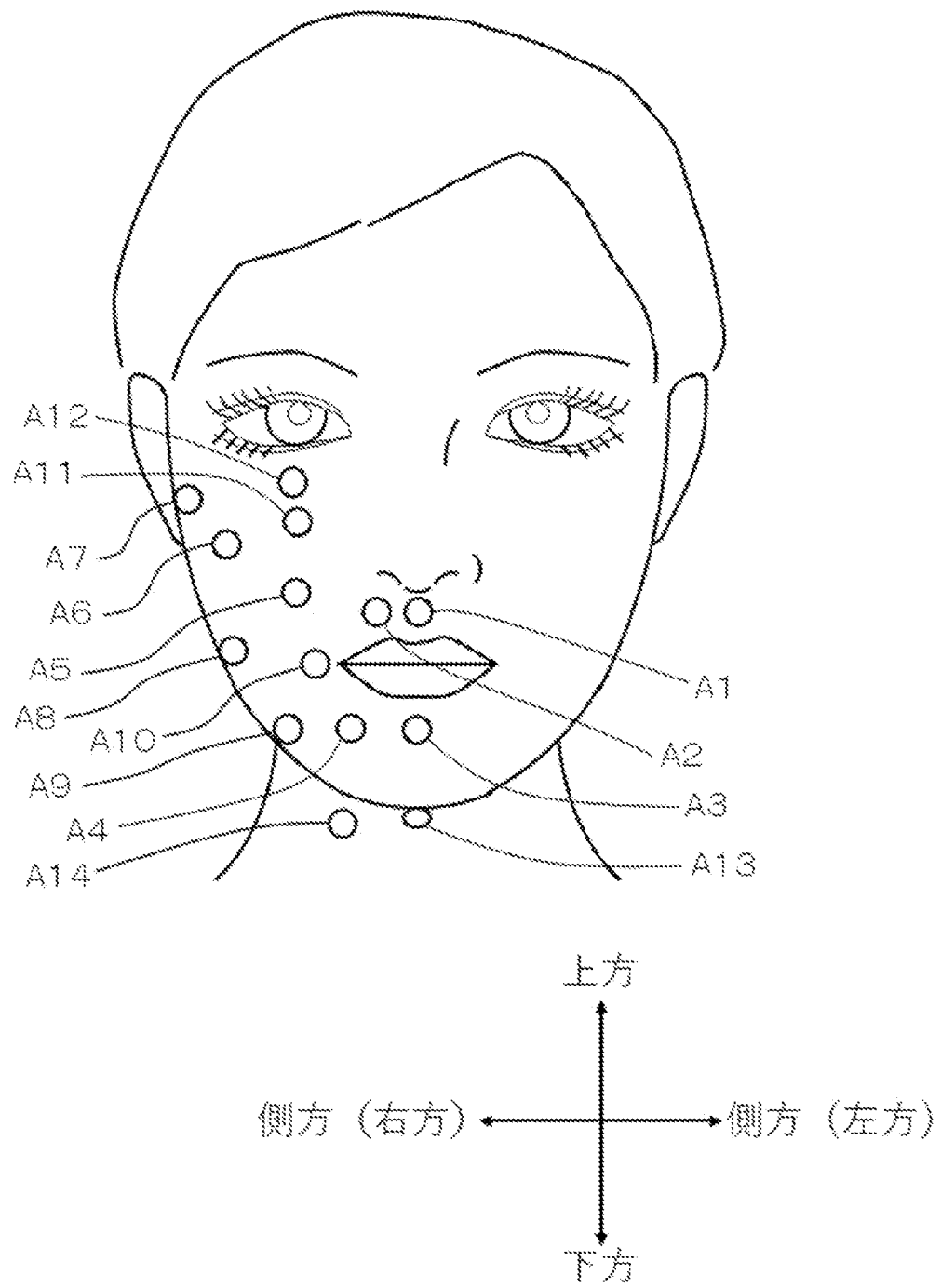
[図3]



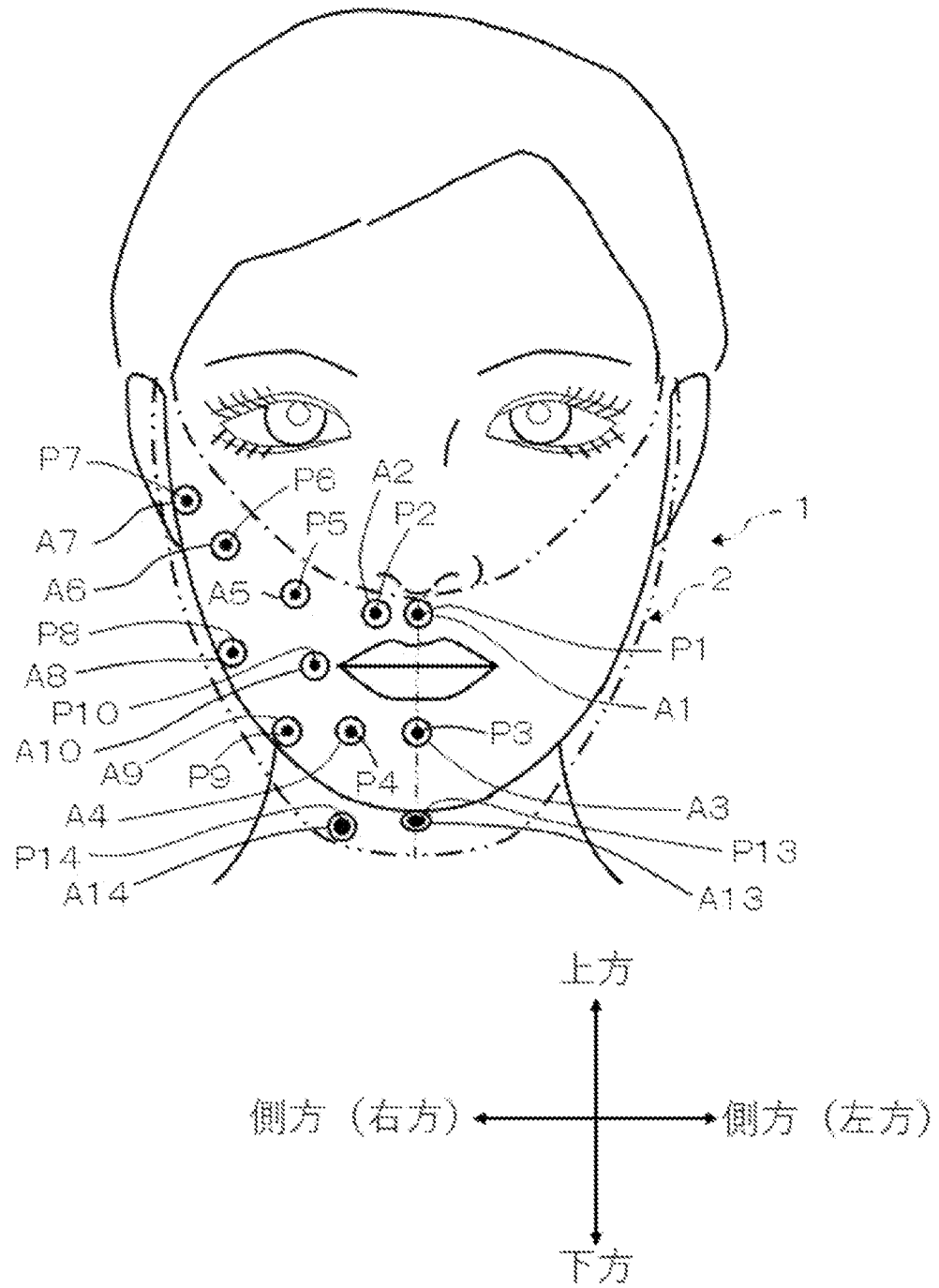
[図4]



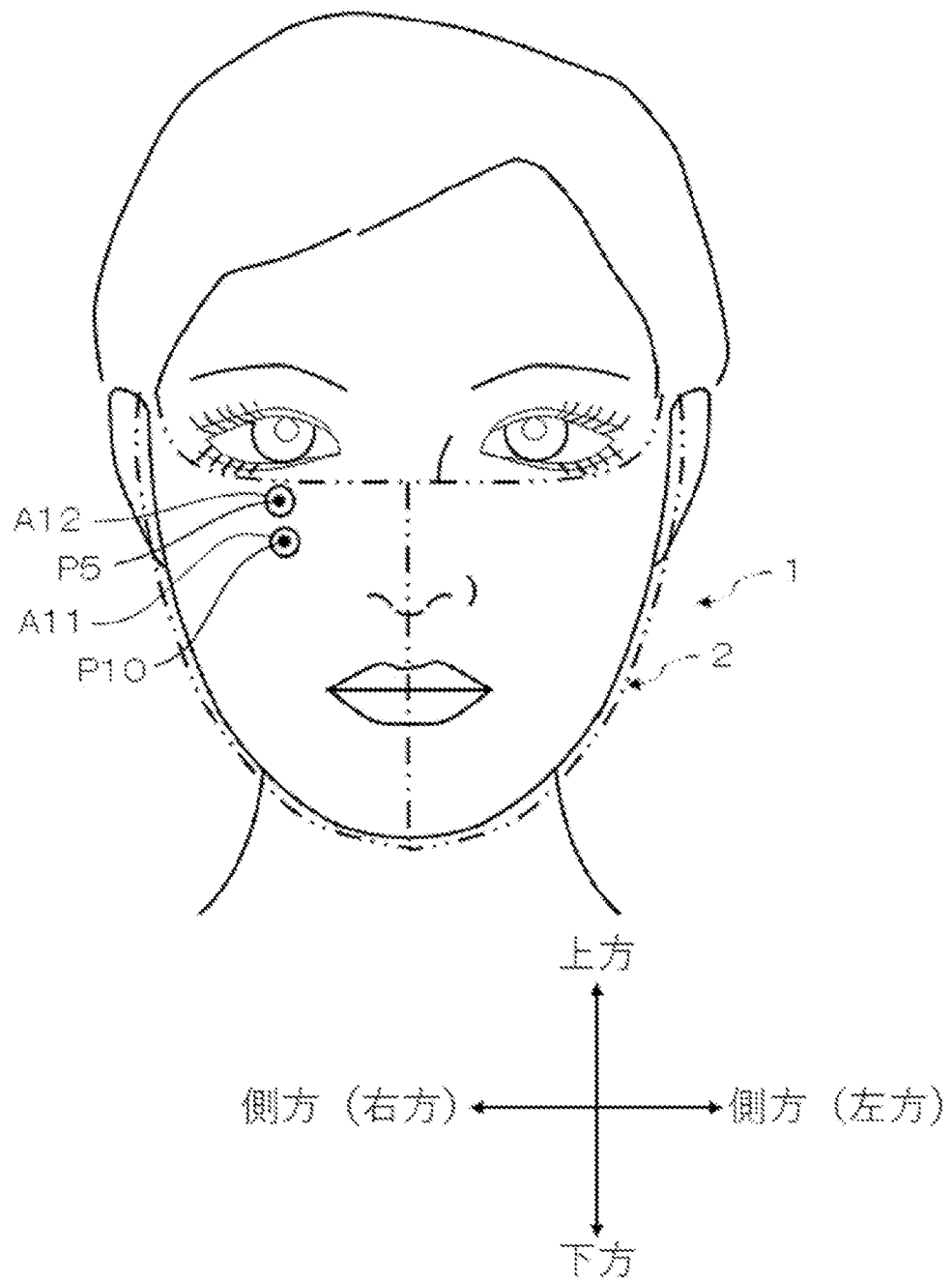
[図5]



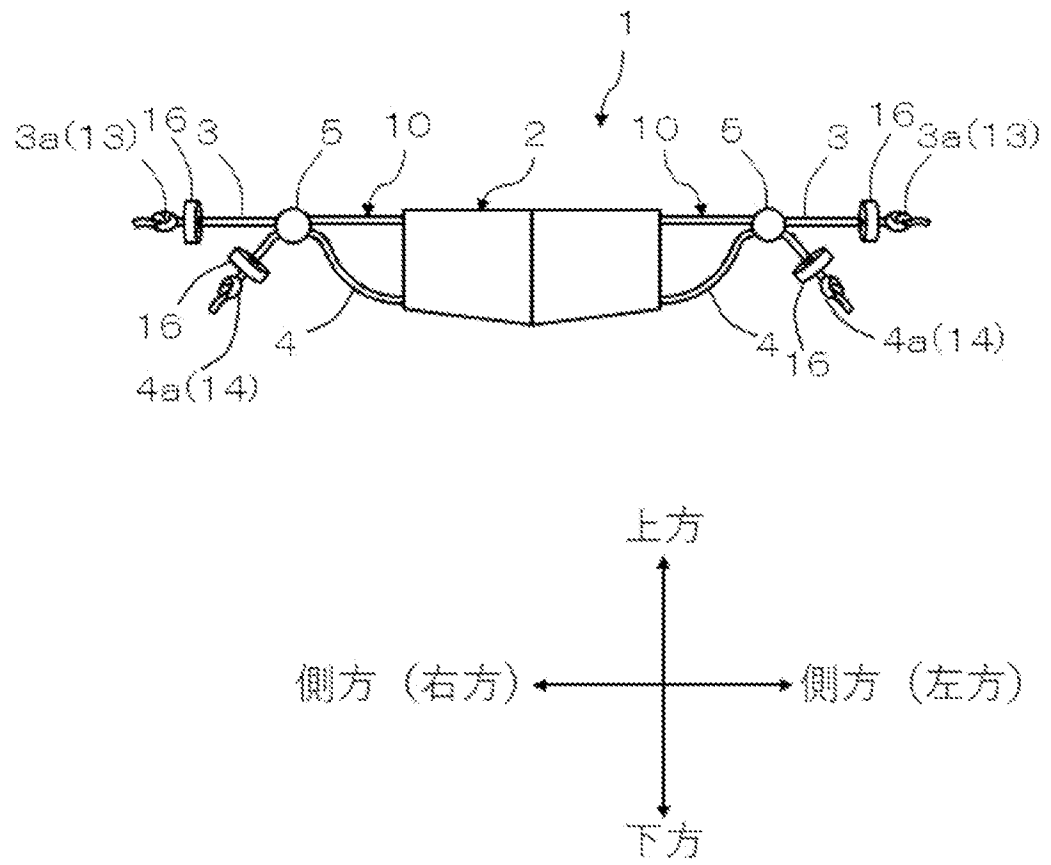
[図6]



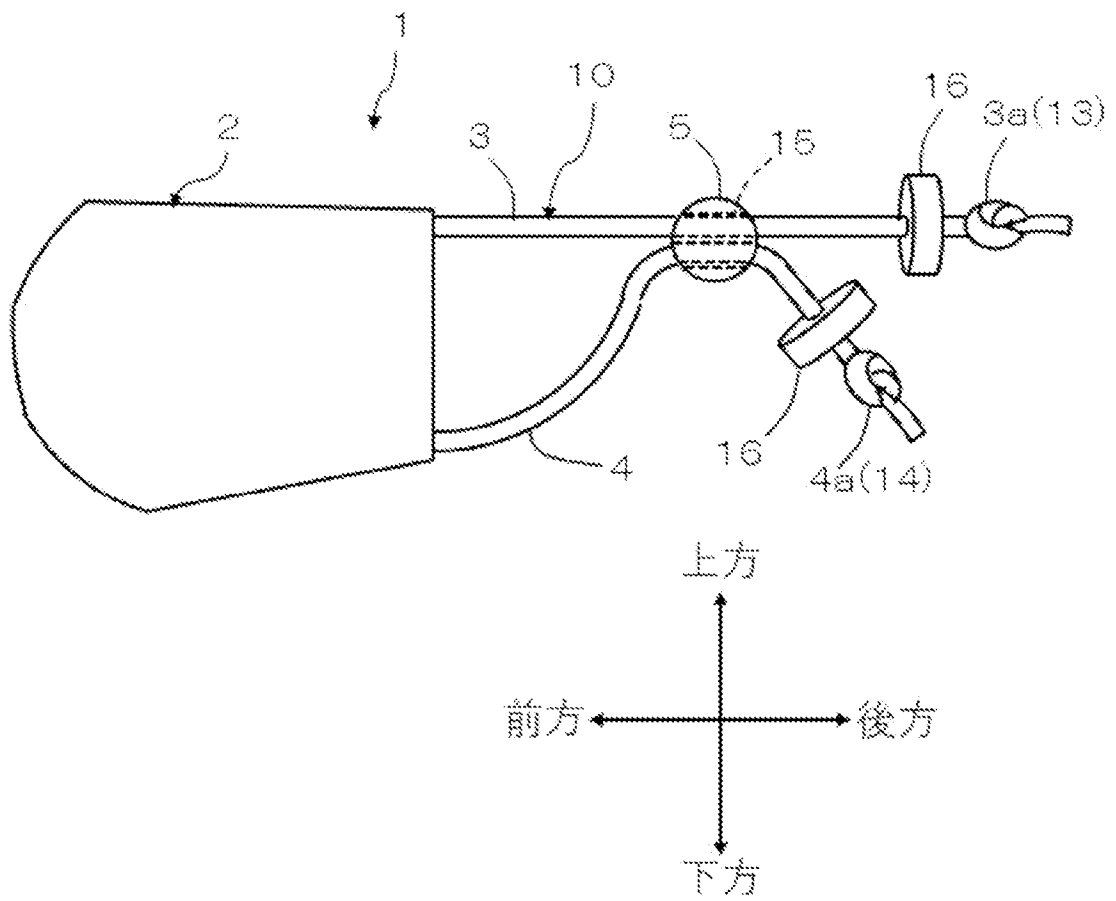
[図7]



[図8]



[図9]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2023/026990

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**A41D 13/11**(2006.01)i

FI: A41D13/11 Z; A41D13/11 H

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A41D13/11

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996
 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2023
 Registered utility model specifications of Japan 1996-2023
 Published registered utility model applications of Japan 1994-2023

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2022-082263 A (YA MAN LTD.) 01 June 2022 (2022-06-01) paragraph [0039], fig. 3, 5	1, 6-8
Y		2-5, 9-11
Y	JP 2021-172928 A (GIFU KASEN KOGYO CO., LTD.) 01 November 2021 (2021-11-01) paragraphs [0025], [0026], [0033], fig. 1, 2	2-4
A		1, 5-11
Y	JP 3235760 U (YIMEI JAPAN CO., LTD.) 15 February 2022 (2022-02-15) paragraph [0016]	2-4
A		1, 5-11
Y	JP 3236895 U (SPRO MEDICAL PRODUCTS (HK) CO. LIMITED) 25 March 2022 (2022-03-25) paragraph [0020]	5
A		1-4, 6-11



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
 “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date
 “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
 “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
 “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
 “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
 “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
 “&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

29 August 2023

Date of mailing of the international search report

26 September 2023

Name and mailing address of the ISA/JP

Japan Patent Office (ISA/JP)
3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915
Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2023/026990

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2011-110152 A (SHISEIDO CO., LTD.) 09 June 2011 (2011-06-09)	9
A	paragraph [0023]	1-8, 10-11
Y	CN 114631657 A (NANORELIX CO., LTD.) 17 June 2022 (2022-06-17)	10-11
A	paragraph [0152], fig. 1	1-9

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2023/026990

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP	2022-082263	A	01 June 2022	(Family: none)	
JP	2021-172928	A	01 November 2021	(Family: none)	
JP	3235760	U	15 February 2022	CN 214572537	U
JP	3236895	U	25 March 2022	CN 216255575	U
JP	2011-110152	A	09 June 2011	(Family: none)	
CN	114631657	A	17 June 2022	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A41D 13/11(2006.01)i FI: A41D13/11 Z; A41D13/11 H		
B. 調査を行った分野		
調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A41D13/11		
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2023年 日本国実用新案登録公報 1996-2023年 日本国登録実用新案公報 1994-2023年		
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2022-082263 A (YA MAN LTD) 01.06.2022 (2022 - 06 - 01) 段落[0039], 図3, 5	1, 6-8
Y		2-5, 9-11
Y	JP 2021-172928 A (岐阜化学工業株式会社) 01.11.2021 (2021 - 11 - 01) 段落[0025]-[0026], [0033], 図1-2	2-4
A		1, 5-11
Y	JP 3235760 U (依美ジャパン株式会社) 15.02.2022 (2022 - 02 - 15) 段落[0016]	2-4
A		1, 5-11
Y	JP 3236895 U (SPRO Medical Products (HK) Co. Limited) 25.03.2022 (2022 - 03 - 25) 段落[0020]	5
A		1-4, 6-11
☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献 “T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献		
国際調査を完了した日 29.08.2023		国際調査報告の発送日 26.09.2023
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		権限のある職員（特許庁審査官） 原田 愛子 3B 6209 電話番号 03-3581-1101 内線 3320

C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2011-110152 A (株式会社資生堂) 09.06.2011 (2011 - 06 - 09) 段落[0023]	9
A		1-8, 10-11
Y	CN 114631657 A (NANORELIX CO., LTD.) 17.06.2022 (2022 - 06 - 17) 段落[0152], 図1	10-11
A		1-9

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2023/026990

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	2022-082263	A	01.06.2022	(ファミリーなし)	
JP	2021-172928	A	01.11.2021	(ファミリーなし)	
JP	3235760	U	15.02.2022	CN	214572537 U
JP	3236895	U	25.03.2022	CN	216255575 U
JP	2011-110152	A	09.06.2011	(ファミリーなし)	
CN	114631657	A	17.06.2022	(ファミリーなし)	